

## シリア, ラッカ県ガーネムアリ周辺の地質

## Geology of Garnem-Ali, Al Raqqa, Syria

# 束田 和弘 [1]; 星野 光雄 [2]; 桂田 祐介 [3]; 齊藤 毅 [4]; 吉田 英一 [3]; 田中 剛 [5]; 中村 俊夫 [6]

# Kazuhiro Tsukada[1]; Mitsuo Hoshino[2]; Yusuke Katsurada[3]; Takeshi Saito[4]; Hidekazu Yoshida[3]; Tsuyoshi Tanaka[5]; Toshio Nakamura[6]

[1] 名大・博物館; [2] 名大・環境研; [3] 名大博物館; [4] 名城大・理工・環境; [5] 名大・環境・地球環境; [6] 名古屋大・年測セ

[1] Nagoya Univ. Museum; [2] Environmental Studies, Nagoya Univ; [3] NUM; [4] Dep. Environmental Sci. & Tech., Fac. Sci. & Tech., Meijo Univ.; [5] Earth and Environmental Sci., Nagoya Univ.; [6] CCR, Nagoya Univ.

シリア, ラッカ県のユーフラテス河沿いには未発掘のセム系部族遺跡が散在している。遺跡にはフリント製の石器が散在しており, その由来は考古学的に重要である。今回, 石器の由来を調べるべく, テル・ガーネムアリ遺跡周辺の地質調査を予備的に行ったので, ここに報告する。

## 【地質概要】

ガーネムアリ周辺には, 第三紀の基盤岩類と第四紀の河川成堆積物が露出する。河川成堆積物はシルト層, 砂層, および礫層からなり, 基盤岩類をアバット不整合で覆う。基盤岩類と河川成堆積物はほぼ水平である。以下に, 各層の詳細について記述する。

## 【第三系の岩相層序】

基盤岩類は主に石膏から構成され, しばしば珪長質凝灰岩層を挟む。石膏は結晶質粗粒で, 白色, 灰色, 淡緑色, 淡青色を呈し, しばしば単層厚 10~20cm で成層する。凝灰岩は一般によく成層し, 層準によっては小型有孔虫や二枚貝の化石を多産するが, 多くの場合殻は溶脱し, 内型・外型雌型として産する。凝灰岩中には石膏脈が発達し, 直径数 cm の球形石膏ノジュールが含まれる。一部では球形石膏ノジュールが密集する。本層は従来, 有孔虫化石により中期中新世後期とされている。

## 【河川成堆積物】

河川成堆積物はシルト層, 砂層, および礫層からなる。河川成堆積物の断面はガーネムアリ西方のゾールシャンバイでよく観察できる。ここでは, 灰色中粒砂と細~中礫を主体とする下部と, 乳白色~黄土色のシルト~中粒砂からなる上部に分けられる。礫は白色粗粒珪岩, 赤色チャート, 花崗岩類, ドレライト, 玄武岩, フリント(赤色チャート以外の細粒珪質岩)などであり, よく円磨されている。礫層は灰色中粒砂を基質とする基質支持礫層で, 一部では礫は比較的好く淘汰されている。基質の一部は石膏(?)によってセメントされている。扁平礫を多く含み, 一部で伏臥構造が発達する。砂層, 礫層ともによく成層し, 斜交層理や上方細粒化を示す級化層理がよく発達する。礫の伏臥構造や砂・礫層の斜交層理は, 西から東への古流向を示す。

## 【考察】

石器は有孔虫化石を多数含んでおり, 石器材料のフリントは珪長質凝灰岩が珪化したものであると推測される。ガーネムアリ周辺には凝灰岩層は多数露出するものの, フリントの露頭は存在しない。河川成堆積物中にはフリント礫が多少含まれるが, その数は多くなく, また礫径は石器より小さいものが多い。したがって現時点では, 石器材料産地は遺跡周辺ではなく, より遠方であったと考えるのが妥当である。石器材料産地を特定するためには, 今後, より広範囲の詳細な地質調査を行う必要がある。